

【水族館で生まれた「ありがとう」とおもてなしの手話レッスン】

『対象』

観光関連事業者（観光・旅行・宿泊・サービス業）

『実施の目的』

聴覚障がい者に対する接遇方法、手話が言語であることの理解を深めることを目的とする。

『手法』

いおワールドかごしま水族館の獣医が取り組む、聴覚障害者への手話による接遇の講演をきく。手話をはじめたきっかけは、人の心を動かし、参加者の手話を始めるための十分な動機となる。ダブル講演のもう一人の登壇者は ろう者。当事者から実際の観光旅行先での困りごとをきく。その講師を通じて実際の手話を体験する。手話、手話通訳、要約筆記、指文字、アプリ使用、身振り手振りなどの方法を学び、聞こえない人とコミュニケーションをとる楽しさを伝える。

2. 日時及び講師・スタッフ

『日時』

開催日 令和 7年 11 月 14 日 金曜日

場所 鹿児島市役所みなと大通り別館6階ソーホーA 会議室

時間 13:30 受付 14:00 開始～16:00 終了

『講師』

いおワールドかごしま水族館 獣医師 大塚美加氏
NPO デフネットワークかごしま 福島健三氏

◇スタッフ

受付3名

手話通訳者2名

3. 研修スケジュール

1 2時30分 関係者集合・設営

1 3時30分 受付

1 4時00分開始

□一部

「だれもが楽しめるユニバーサルアクアリウムをめざして」

いおワールドかごしま水族館 獣医師 大塚美加氏

- ①手話をはじめたきっかけ
- ②手話条例条例や他県の水族館の事例
- ③だれもが訪れ、楽しむことができる水族館であるためにできること。

□二部

【おもてなしの手話レッスン】

NPO デフネットワークかごしま 福島健三氏

- ①観光・旅行先で耳が不自由なことでの困りごと
- ②参加者を巻き込んでの実際の手話レクチャー
- ③だれもができる手話やコミュニケーション方法

16時00分終了

16時30分 撤収

4. 内容

○ご挨拶 主旨説明

□一部 「だれもが楽しめるユニバーサルアクアリウムをめざして」 大塚美加氏



水族館で「いるかの時間」を担当してる大塚氏。だれもがわかりやすいように心をくだいてきたつもりだったが、ある日、耳が聞こえないであろう小さなお子さんの姿にショックを受けう。耳が聞こえなかったのではないかとそのときの後悔から、だれもが訪れやすくなる水族館への取り組み。聞こえづらい人だけでなく、そこから、ユニバーサルアクアリウム構想を考え、水族館まるごとの取り組みにしていく経過は、物語としてきくひとに、自分もそんな一員になりたいと参加者に思わせる内容であった。

□二部 【おもてなしの手話レッスン】 福島健三氏



手話はコミュニケーションであると説く福島氏。大切ではあるけれど、通訳をめざすのではなく、覚えた手話を使い、コミュニケーションをしてみる大事さを伝えた。ろうであって一般人と変わらずに接してほしい。ありがとう、鹿児島、おいしい、など基本のことから、観光・宿泊業向けに ようこそ、危ない、逃げろ、桜島などの手話をレクチャーした。口をおおきくあけて話す、ゆっくり話す、低めの落ち着いた声で話す、など手話以外にも、だれでもできることも伝えた。災害を意識した手話は桜島をかかえる鹿児島には大切な手話言語だと話した。



△デフリンピックの紹介や、手話に関する本の紹介も展示。

5. 期待される効果

手話をはじめのきっかけは、極めて個人的な想いからはじめる人がいる。大塚氏はまさにその一人。イルカの時間を受け持つ者として、参加できないひとがいることを憂いて、手話をはじめたという物語は、参加者の胸を打った。手話の習得に時間がかかること、手話言語もたようであること、など実際の現場での悩みも話した。その正直な経過は、途中で手話をあきらめたひとや、これから、はじめようか悩んでいた人の背中をおすきっかけになった。ホテルフロントの女性は、「正しい手話をきちんと使わないと失礼にあたる」とおもしろい、人前で手話の話はできなかったという人も、これからは思い切って表現し、話しかけると前向きになった。また、施設内で手話を広げたくても、孤立感があるとの相談もあり、手話を習得するというより、実際に手話や、ろう者と話す機会を増やすこと。終了後も、この研修に参加した人達で、なにかできないかという話や、現場で手話をみたい、手話のイメージ変わったという声が聞かれた。聴覚障害への顧客へのサービスとしての手話による接遇を考える機会となった。この輪がとぎれないよう、今回の講演会は、定期的開催を、とのぞむ声がきかれた。以上